

生徒会主導で10万点集め、大型時計購入

大阪・南港南中、テーマソングにベルダンスも



ベルマーク集めに取り組んだ昨年度の後期生徒会の役員らと沖教諭(右端)。手にしているのが、購入した時計と公式キャラ「あけみ」ちゃんです

大阪市住之江区の市立南港南中学校(高島裕二校長)の生徒らが、今春の小中一貫校化を記念して、約1年間ベルマーク集めに取り組みました。目標は10万点。生徒数約120人の小規模校としてはかなりのハードルの高さでしたが、地域や小学校を巻き込みつつ、キャラクター、テーマソング、ダンスなども創作して運動を盛り上げ、ほぼ達成。「一貫校のシンボルになるものを」と大型の電波時計を購入し、新校舎の壁に取り付けました。

中心になったのは生徒会です。一昨年末、担当の沖正樹教諭(30)の提案で、4人の役員が「みんなで目標をもって取り組めることをしよう」と、長い間休眠状態だったベルマーク運動の再開を決めました。楽しく続けられるようにして生徒の参加意識を高めようと、アイデアを出し合いました。

まず、公式キャラクターとマスコットの制作にとりかかりました。美術部に

頼んで、ベルマークとハリネズミをあしらった女の子の人形を制作。全校生徒から名前を公募し、女の子は「あけみ」、ハリネズミは「ミスター・トゲマウス」と名付けました。

さらにテーマソング「お隣さんはAKEMI」を作ります。クラスや各委員会の代表者らで構成する生徒議会のメンバーが作詞して、音楽が専門の沖教諭が作曲。タイトルは校内で募りました。

僕たちは集め続ける叫び続ける『ベルマーク回収〜!』/僕たちは集め続ける叫び続ける/みんな知らずに 実は捨てている いつも気づかない ひと手間かけて/ベルベルベルベルベルマーク チョキチョキ切り取り南中へ(繰り返し)/I want to ベルマーク You have a ベルマーク(繰り返し)

一度聴いただけで、歌詞が頭の中に響き渡り、口ずさみたくなる軽快な歌です。

吹奏楽部員らによる伴奏も付け、体育科の先生に頼んで、曲に合わせた「ベルダンス」も作り上げました。

そして、この年の4月、全校集会でお披露目し、ベルマーク集めを本格的にスタートさせました。毎週水曜と金曜の朝には、あいさつ運動も兼ねて生徒会役員らが、あけみちゃん人形とともに校門に立ち、マーク回収を呼びかけました。「ベルマークデー」を毎月設けて校内で回収し、仕分けと集計は全校生徒で分担しました。

地域への働きかけにも力を入れました。校区内の団地のあちこちに回収箱を置き、近隣の2小学校にもマーク収集の協力をあおぎました。

もともとあった1万点ほどのベルマーク預金も合わせ、積み上げた点数は9万1143点。卒業生などからの寄付を加え、時計の購入・設置が実現しました。

今年3月まで後期生徒会の会長を務めた草場琉太さん(3年)は「最初は集

められるか自信がなかった。学校のみならずやり切ったのはとてもいい経験になりました」と振り返ります。同じく副会長だった渋谷陽生(ひなせ)さん(同)も「仕分けは大変だったけれど、目標を決めた以上はあきらめずに頑張ろうと思いました。マークが集まった時はうれしかった」。

沖教諭は「生徒会のやりがい、活性化につながれば」との思いでベルマーク回収を提案したそうです。運動部員らにも呼びかけ、「ベルダンス」のプロモーションビデオ(PV)を自ら制作するなど、生徒らの活動を応援し続けました。「無謀な目標だったかもしれませんが、子どもたちは一生懸命取り組みました。地域や小学校からの支援も大きかった」と言います。「多くの人たちの協力を得て新しいことに挑戦した貴重な経験を、これからは生かしてほしい」と願っています。



(写真上)マークの仕分け・集計に取り組む生徒ら
(写真下)地域からもたくさんマークが寄せられました

「食」を通して地域の居場所を

キューピーみらいたまご財団が「サミット」

一般財団法人キューピーみらいたまご財団が「第2回地域の居場所づくりサミット」を5月30日に開きました。同財団は、「食育」を通して社会貢献をしている非営利団体を支援するため、協賛会社のキューピー(ベルマーク番号07)が昨年4月に設立。「食育活動」と「食を通じた居場所づくり支援」の2つの分野での活動を助成しています。

サミットでは、昨年度助成を受けた団体からの発表がありました。8団体が助成を受けた「食育活動」では、特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所の代表理事、竹垣英信さんが代表として登壇。同研究所は経済的な理由からイベントに参加する機会を得づらい母子家庭を対象に、畑づくりから始まり、栽培・収穫・調

理・共食までの一連の流れを体験活動として提供しています。会場のスクリーンには親子で農作業をする様子が次々と映し出され、竹垣さんは「以前子ども食堂に行ったときに、食べ残しをするお子さんが多かったのがショックだった。今回は食べ残しがなく、食を大切にするという心が養われたのではないかと成果をまとめました」。

12団体が助成を受けた「食を通じた居場所づくり支援」の発表者は、一般社団法人寺子屋いづみ代表の岩岡いづみさんです。運営する「子ども食堂」に助成金で新しい台所を設置しました。1983年から「学習塾寺子屋」として学習する場所の提供もしていますが、その頃から一緒に食べることを大切にしているそうです。岩岡さんは「食べることは人と人との距離を縮め、食べながらだ



と心が緩み、自分の体験を話し始める」と、その重要性を語りました。熱気に満ちた活動報告会となり、大きな拍手で締めくくられました。

キューピーみらいたまご財団は、今年度も食育活動で10団体、食を通じた居場所づくり支援で16団体を支援しています。2019年度の助成対象は、今年の10月頃から募集開始する予定で、詳細は後日財団のホームページに掲載されます。